

楽住快居

つり下がったネット状の筒に、りんごやじゃがいもなどが納まる。カラフルな入れ物は、福井市のリンクコーポレーションが販売する「ベジネット」だ。入れる野菜や果物によってネットの色と大きさは五種類。大きな順にりんご用の緑、じゃがいも用のピンク、玉ねぎ用の青、にんにく用の黄色、しょうが用の紫となっている。ネットの側面にはそれぞれの名前が英語で書かれている。

何がいくつ入っているか一目で分かるから、冷蔵庫や野菜かごの中に傷みかかった野菜を発見してあわてるといった心配はいらない。下部にホックの付いた開口部があるので、つるしたままで出し入れも可能だ。

このほかにも網状製品特有の

ときめきインテリア



キッチン小物 ③

ベジネット 「おいしいキッチンプロジェクト」で、料理創作ユニットのGomaとカーテンや車の座席カバーなどの荒川レース工業が共同開発した。価格は700円（にんにく、しょうが用）、1050円（りんご用）など。問い合わせはリンクコーポレーション（☎0776・23・4231）まで。

利点をもつ。風通しがよい。身によって形が自在に変化する。つり下げる方式だから床や棚板の上を占有せずに済み、空間を効率的に利用できる。

ベジネットは、福井市の地場産業育成を目指す「おいしいキッチンプロジェクト」の成果の一つとして二〇〇五年十月に誕生した。デザイナーと福井県内のメーカーを組み合わせ、キッチンまわりのグッズを開発する

カラフルに「見せる保存」

事業だ。狙いは、中国などの海外生産に押されがちな地元の素材産業を活性化させること。五つのグループが製品開発に取り組み、まな板や水切りラックなどと共に生まれたのがベジネットだった。

最近のキッチンは、工業製品によって取り囲まれているといつて過言ではない。ぐるりと見渡すと目に入ってくるのは、システムキッチンのステンレスや人造大理石、電化製品の樹脂など、人工的な素材がほとんどだ。食材にしても、似たことが言える。テークアウトを利用する「中食」が広まり、キッチンに置かれる食材は加工品の占める割合が増えた。本来、自然素材と近い関係にあるはずのキッチンから、第一次産業に直結した生活感が薄れている。

ベジネットは、野菜や果物をあらわに見せながら保存する道具だ。どこか農家の納屋風に見せる手法は、素朴さを感じさせる。しかし同時に、鮮やかな色合いを持ち込むことによって土臭さをオフラートでくさみ、野菜をかわいいうインテリア雑貨のように見せている。

「脱・生活感」という最近の流れは、こんなところにも波及している。

（ライター 守山 久子）